

<巻頭言>

第3巻第1号の発刊にあたって

山田礼子
同志社大学

このたび、初年次教育学会誌『初年次教育学会誌』第3巻第1号を刊行する運びとなった。学会誌を発行するにあたっては、編集委員長、副編集委員長をはじめ編集委員会の皆さんには大変な編集作業に当たっていただき、心から感謝をする次第である。

今号には、研究論文、事例研究論文の計7本の投稿があったという。昨年の第2巻第1号には、18本の投稿があったので、投稿数の減少は残念である。しかし、採択された論文はもちろんのこと、採択には至らなかった論文の中にも初年次教育学会のテーマにふさわしい力作が多かったと編集委員会からはうかがっている。

初年次教育学会の会員数も個人、機関および賛助会員の区別なく順当に増加してきている。そうした関心の広がりや拡大を反映して、2010年9月11日・12日に高千穂大学で開催された第3回大会では、大学や短期大学以外の教育機関に所属している会員の発表も多々見られた。実際に、投稿論文のタイトルを拝見する範囲でも、こうした拡大と多様化の様相が見て取れる。初年次教育学会に所属している会員は、様々な学問的背景を持っているという学際性が特徴であると同時に、実践やプログラム構築にかかわっている職員が会員となっているケースも多く、教職協同が他分野よりもいち早く定着していることも、本学会の特徴のひとつでもある。

学会は、研究成果を発表、交換することによって、学問としての体系性を確立し、研究蓄積に寄与していかなければならないという性格を持つと同時に、初年次教育のような実践性や効果的なプログラムや教育方法の開発が求められる新しい領域では、会員相互の交流を通じてのノウハウの伝播が鍵となる。分野別の初年次教育の内容や方法、キャリア教育との関連性、初年次教育の効果をマクロあるいはマイクロレベルでどう測定していくか、総合的な初年次教育のプログラム構築等、初年次教育が研究としても実践としても蓄積していかなければならない領域は数多く、学会および会員とともにこうした領域の蓄積を図ってきたい。

各高等教育機関のディプロマ、カリキュラム、アドミッション・ポリシーの明確化が必至である現在、こうした三つのポリシーの礎となる初年次教育の充実はますます重要になっている。本学会誌には初年次教育の実践やプログラム構築をしていくうえで、ヒントとなる情報が多く掲載されている。是非、皆様には本学会誌をご一読いただき、授業やプログラムに実際に活用していただければと願っている。

最後に、充実した内容の第3巻第1号が発行できたのも、精力的に編集作業に携わっていただいた編集委員会のご尽力が大きい。この場を借りて、心からの感謝の意を表したい。

(初年次教育学会会長)